



01



04



02



05



03

環境広場さっぽろ

環境広場さっぽろは、地球環境を守るための行動につなげることをめざす環境イベントで、2013年で16回目を迎えます。道では、「地材地消」や「木育」をキーワードとして環境を考えて頂くため、これまでも道内の森林から産出された木材を使った木工体験や、「地材地消」や「木育」を学ぶパネル等の展示をしてきました。今年、北海道産の住宅部材を使った「住宅部材展示ブース」も初めて会場に持ち込むなど、内容も充実させました。

木工体験はトンカチ広場（道産木材を使った自由工作）とおが粉アートです。例年どおり、トンカチ広場は参加する大人の方が夢中になり、常に制限時間の1時間半ぎりぎりになってしまっています。今年はサンプルも一新したので、それを目当てに参加して頂ける方も多かったのが印象的でした。おが粉アートも盛況で、早くできた子に追加を渡していたら、いつのまにか在庫が不安に…

木育マイスターの木育教室は、北海道産のサクラとキハダを使ったマイ箸づくりです。気合いの入った鉋の使い方の練習は大人にも勉強になります。仕上げはエゴマ油を塗布します。

住宅部材展示ブースはこれまで、木製家具などを置いて展示することが多かったのですが、今回は子どもたちの参加が多いと考え、きぼうのプールや木製遊具をおいて楽しんで頂きました。

- 01 住宅部材展示ブースと木製遊具
- 02 トンカチ広場
- 03 おが粉アート作品
- 04 トンカチ広場
- 05 木育マイスターの木育教室(マイ箸づくり)

● 名称：環境広場さっぽろ2013
 ● 日時：平成25年8月2日（金）～8月4日（日）
 10：00～17：00
 ● 場所：アクセスサッポロ
 （札幌市白石区流海センター4-3-55）

続けていくことの価値、 変化させることの価値

木育や地材地消の取り組みを継続するためには、これまでの実績を踏まえながら、地域の技術の変化に合わせて、修正・発展させていくことが大切です。

目的は一緒でも、いろいろ探りアンテナを伸ばすと、各地域の様々な取り組みが見えてきます。



大工さんのものづくり



マイ箸づくりではカンナの調整もお手のもの

カラマツ人工林が主体となる北海道遺産「根釧台地の格子状防風林」がある中標津町で、「木材（地域材）利用を考えるフォーラム」が開かれました。カラマツ材の利活用を考え、将来を担う子どもたちに木育（もくいく）を通じて、森林の大切さを感じてもらいたい。そんな思いを受けて大工さんでもある木育マイスターが、子どもたちに木のものづくりを伝えました。



- 名称：「木材（地域材）利用を考えるフォーラム」
- 日時：平成26年1月16日（木）14:00～19:30
- 場所：中標津町総合文化会館（しるべつと）
- 主催：中標津町地域材利用促進協議会・中標津町

置戸町では、国土交通省の補助を受け、カラマツ無垢材を使用した町営住宅を建設しています。これまではトドマツの集成材を構造材に使用してきましたが、平成25年度はカラマツ芯持製材を採用しました。町産材を置戸林産流通加工協同組合連合会で加工・乾燥し、ウディハウスおけとプレカットセンターでプレカットしています。

※平成25年度はトド集成材住宅を2棟、
カラマツ芯持ち住宅を1棟建設（1棟2戸）



置戸町町営住宅の外観



カラマツ芯持の構造材

町内で伐採から加工・流通・プレカットまで

くしろのカラマツで素敵なもの作ろう！



MOOIに設置予定のカラマツパイプ椅子 学校机



釧路市は、平成17年の3市町合併により、市全体の面積の約74パーセントを森林が占めることとなりました。釧路市内の豊かな森林資源を活用する取り組みを推進するため、木材産出側（川上）から木材利用側（川下）までの様々な関係者が一堂に会し、地域の課題等を話し合う「釧路森林資源活用円卓会議」が平成22年11月に設置され様々な取り組みを実施しています。その一つである「くしろ木づなプロジェクト」では、地元木材であるカラマツの利用拡大を図る取組として、様々な製品を開発しています。



和商市場に設置されたカラマツテーブル



●名称：北海道森づくりフェスタ2013
プレイイベント
「木育ひろばinチカホ」
●日時：平成25年9月21日（土）、
22日（日） 10:00～16:00
●場所：札幌駅前通地下歩行空間
北3条交差点広場

●名称：北海道森づくりフェスタ2013
【北海道植樹祭・育樹祭】
●日時：平成25年10月12日（土）
10:30～15:00
●場所：当別町道民の森神居尻地区

●名称：「道民森づくりネットワークの集い」
●日時：平成25年10月19日（土）
10:00～15:00
●場所：北海道庁赤レンガ前庭

- 01 木育ひろばinチカホの様子
- 02 ウッドシェイカーづくりやマイ箸づくりで賑わいました
- 03 道庁赤レンガ前の銀杏の大木のツリーイングは大人気
- 04 森知り博士のO×クイズ開催
- 05 道民の森の北海道植樹祭には600名が参加

北海道森づくりフェスタ2013

9月21日（土）22日（日）の2日間、札幌駅前通地下歩行空間において「森づくりフェスタ2013」プレイイベント「木育ひろばinチカホ」を開催しました。10月に開催の「森づくりフェスタ2013」は、「北海道植樹祭・育樹祭」「道民森づくりネットワークの集い」など森林づくりに関わるイベントを一体的に開催します。

プレイイベントでは、森づくりフェスタのPRはもちろん、北海道の木で作られた遊具で遊んだり、様々な木工作を楽しんだり、北海道産の木製品にふれたり、森から生み出される恵みを体感してもらいました。

10月19日（土）に道庁赤レンガ前で開催した「道民森づくりネットワークの集い」では、「マイ箸づくり・グリーンウッドワーク体験」や「ツリーイング体験」、「森知り博士のO×クイズ大会」などで木にふれ、木について学ぶ日となりました。また、この1週前に開催した「北海道植樹祭・育樹祭」では、当別町「道民の森」に木を植え、枝払いなどの育樹作業も行いました。「森づくりフェスタ2013」全体として、森林の循環利用を体感できるものになってもらえたいと思います。



▲北海道森づくりフェスタ2013チラシ

地域に貢献～道産材住宅のスヌメ 06



- 名称：森とイエ プロジェクト住宅見学会（完成見学会）N-HOUSE
- 日時：平成25年11月24日（日）10時30分～12時00分
- 場所：上川郡下川町上名寄 ●参加人数：26名

- 名称：森とイエ プロジェクト住宅見学会（完成見学会）S-HOUSE
- 日時：平成25年12月7日（土）10時30分～12時00分
- 場所：上川郡下川町南町 ●参加人数：28名

01 N-HOUSE外観 02 N-HOUSE座談会 03 N-HOUSE内装



このほかに…

このほか、平成25年度は2件の「北の木の家」住宅見学会を開催しました。

- 名称：「北の木の家」構造見学会
- 主催：道産材で造る家の会（三津橋産業（株）、（株）三五工務店）
- 日時：平成26年2月22日（土）10:00～15:00
- 場所：江別市野幌

- 名称：「北の木の家」住宅見学会～木のものづくり体験会
- 主催：「木育」でつなげる北海道木造住宅の会（北スタイル（株）、（株）三五工務店）
- 日時：平成26年3月8日（土）～9日（日）10:00～15:00
- 場所：札幌市新琴似



江別市住宅外観



札幌市住宅内部（マイ箸づくり）

北の木の家住宅見学会

秋も深まり、雪もちらつき始めた上川管内下川町で、2回の「北の木の家住宅見学会」が開催されました。主催は、地元の工務店と建築家が協働して、これからの地域らしい住宅を創造するために結成された「森とイエ」プロジェクト。

このうち、11月24日の住宅見学会では、はじめにプロジェクトの代表である（株）丸沼高橋工務店（北の木の家）建築推進業者の高橋氏や、設計士の中館氏により「森とイエ」や「北の木の家」に関する説明とその意義が参加者に伝えられました。

また、今回の設計を担当した小倉氏から、床下暖房、窓から見える景色への配慮、コンパクトな空間づくりの工夫などについての説明があり、施主を交えた座談会では工務店の苦勞も聞かれるなど、一つの家に関わったそれぞれの人の表情とその経過が感じられる取り組みになりました。

※本住宅見学会は「北の木の家」普及推進事業（社会資本整備総合交付金）を活用して実施しました。この他11月30日、12月1日には左官職人の野田肇介氏を招いて「左官土壁塗りワークショップ」で下川の土で塗ることも開催されました。

「北の木の家」

北海道木材産業協同組合連合会が認定する、次のような、品質の確かな地域材を総木材使用量の半分以上に使用した住宅です。

1、地域材として産地証明されている
2、森林法などの木材の伐採・搬出に関する法令が守られていること（合法性）が証明されている

3、構造用材は日本農林規格（JAS）で認定されている

「北の木の家」建築推進業者認証制度

北海道内の森林から産出され、道内で加工された木材を使った家づくり「北の木の家」の建築や設計、そして道民の方々へのPRを行っていただく、設計事務所さんや工務店さんなどを、北海道が基準に基づいて認証する制度。

「北の木の家」普及推進事業（社会資本整備総合交付金）

北の木の家建築推進業者が連携して「北の木の家」の普及PRの取組を実施することで、「北の木の家」の建設・普及を通じて木材業者と建築業者等の連携促進や、道民の環境意識・居住水準の向上を図るとともに、地域材の利用拡大により、道内住宅産業の活性化を図る事業

地材地消マーケット調査

道産材活用を効果的に推進するための参考とするため、工務店等の住宅建設における道産材活用の実態や課題、今後の意向などを把握するマーケット調査を行いました。

- 実施主体：北海道林業・木材産業対策協議会
- 調査者：(株)ピーアールセンター、(株)北日本調査社

平成25年度住宅における道産材活用に関する調査 結果概要

1 調査実施概要

①調査目的

道産材活用（地材地消）を効果的に推進するための施策検討に向けて、工務店等の住宅建設における道産材活用の実態や課題、今後の意向などを把握した。

②調査対象・回収状況・調査方法

道内の住宅建設を行う工務店、住宅設計を行う設計事務所を電子電話帳を基から1,200件を無作為に抽出し、郵送法で実施した。

回収数は有効回収票は232件（工務店187件、設計事務所45件）である。

③調査時期

平成25年9月中旬～10月初旬

2 回答者の概要

- 回答企業の47%が従業員1～5人の小規模事業所。
- 年間住宅施工（設計）数の平均は、工務店が15.0棟、設計事務所は7.4棟。
- 木造住宅の平均建築数は、工務店が14.1棟、設計事務所が6.5棟。
- 木造住宅に関しては73%が「在来工法」を主としている。

3 道産材活用に対する意識

- 住宅への道産材活用には高い関心を持っており、とても関心ある（37%）と、多少関心ある（47%）を合わせた関心企業は8割を超える。
- 道産材関連の知識・情報の認知率は、木材ポイント制度（55%）や地材地消運動（50%）以外は低く、道産材の“実力”が正しく理解されていない。
- 道産材に関しては、従来から「割高感がある」と指摘されてきたが、今回の調査でも、安い（3%）・まあ安い（11%）との認識は14%に留まるのに対し、かなり高い（10%）・やや高い（43%）との割高認識が53%にも上った。
- 「割高感」を、施主に対して建築費増として転嫁することに対しても、69%は困難とみている。
- また、材料費増加に対する施主の理解を得られるかの見通しについても、43%は困難とみているが、設計事務所などでは1/4が理解いただける、何とかできると回答しており、こうした努力をバックアップすることが重要になる。

4 道産材活用実態

- 過去5年間に、木造住宅の構造材として道産材使用経験企業は39%で、平均9.2棟（年に2棟弱程度）である。
- なお、このように実際に道産材を使用した企業ほど、「道産材は割高」との認識を持っていた。
- 過去5年間に道産材を使用した企業の場合、4割は自社の方針として

施主に提案（39%）していたが、設計事務所の場合は、施主自体が希望した（33%）ものであり、住宅ユーザーへの啓蒙の重要性も分かる。

●道産材を使用する主な動機は、下記であった。

- ①地域材の活用で地域経済に貢献（57%）
- ②構造材として強度に優れている（29%）
- ③北海道の森林資源を適正に保つ（26%）

●工務店や設計事務所の提案の場合は、特に構造材としての優位性を理由にする割合が41%もあるが、施主が言い出す場合では、それが18%しかない。施主（住宅ユーザー）には、地域資源活用のような理念的側面だけではなく、構造材としての品質・優位性の啓蒙も重要である。

●なお、道産材使用時の課題としては、構造材の価格の高さ（39%）が突出して大きく、これには自社の利益を減らして対処しているようだ。

5 道産材を活用しない要因

●ほぼ6割が道産材を使用していなかったが、その要因は（とても大きな理由との割合から）

- ①価格が高い（28%）
- ②品質が安定していない（14%）
- ③納期が遅い（9%）

が主であり、集成材の敬遠感や輸送費問題、現場での加工の難しさ、木材の色合い・風合い等は主因とはなっていない。

●道産材の割高感を背景に、道産材を使用していない企業では、行政等による「道産材使用時の割高分の補助制度」に期待する声大きい。

●また、「構造材の材料費が10%増」なら使用してもよいとの判断割合は23%であるが、「5%増」なら38%に跳ね上がることも、価格感の目安として注目できる。

6 今後について

●回答企業の76%が「条件さえ整えば道産材を使用してもよい」と回答しており、特に設計事務所での取組み意向は大きく、地材地消運動への理解企業も85%に上っている。

●道産材使用に向けて、各企業が期待する施策としては、次の順で大きい。※数値は「おおいに参加・多少参加したい」の合計割合）

- ①道産材活用優遇・支援策の説明会（69%）
- ②道産材の耐火・強度試験見学会（59%）
- ③道産材の品質・特性紹介セミナー（56%）
- ④道産材使用住宅現場見学会（50%）

●今後は、こうした工務店、設計事務所への道産材理解への取組みを促進すると共に、先述の「施主理解」への取組みも重要と考えられる。

木造公共施設の整備を進めています 07

ふきのとう文庫

北海道の
木の建物を
訪ねてみました。

子ども図書館「ふきのとう文庫」の札幌市中心部への移転に合わせ、事務室、布の本・遊具・拡大写本の製作作業室と多目的ホール機能を併せ持った施設を新築しました。

この地域、現在はマンションが立ち並んでいますが、大正時代に北海道帝国大学（現・北海道大学）の教授たちが自邸を建てていることが多く、「大学村」とも呼ばれた地域で、本文庫の裏側にも古い住宅がそのまま残っています。

建物は、準防火地域でありながら、外壁のうち法的に可能な部分には木質化がなされています。また、構造にカラマツ大断面集成材を使うことにより、図書室の広い空間を作り上げています。コストに配慮し特殊構造を用いない視点も見逃せません。

このほか、事務室には以前ここに植えられていたイチイの木を、あらわしの柱として製材し、「見える記憶」が残されるなど、効果的に木を見せる使い方と、風景・歴史に配慮した暖かみのある施設に仕上がっています。

概要

- 名称：ふきのとう文庫
- 位置：北海道札幌市中央区北6条西12丁目8
- 構造規模：木造二階建て454.01m² 在来軸組工法
- 用途地域：近隣商業地域(準防火地域)
- 用途：子ども図書館
- 設計：株式会社安藤敬郎建築設計事務所(札幌市)
- 施工：近藤工業株式会社(小樽市)

木製部材産地・加工

- 使用木材：十勝(芽室町・池田町) カラマツ 約35m³
夕張 トドマツ 約35m³
- 木材加工：協同組合オホーツクウッドピア(北見市留辺蘂町)
- プレカット：北海道プレカットセンター株式会社(苫小牧市)

木材使用箇所

- 木材使用量：道内産木材 88m³
- 構造材：カラマツ
- 羽柄材：トドマツ
- 外装材：カラマツ羽目板(一部)
- 開口部：木製サッシ(一部)
- 床：道産ナラフローリング(1F)



01



02



04



03

- 01 閲覧室と書棚
- 02 夕暮れの外観
- 03 カラマツ大断面集成材
- 04 イチイのあらわしの柱

<写真 安達建築写真事務所>

ふきのとう文庫

1970年、後に初代理事長となる小林静江氏が、自宅に障がいをもつ子どものための文庫を始めたのがきっかけ。1979年法人化。現在は「すべての子どもに本の喜びを」をモットーに、障がいをもつ子どものための本づくり、子ども図書館、布の本制作、制作講習会、拡大写本制作、うたとおはなしの会・手づくりあそびなどの活動を実施している。これまで、1997年障がいのある人の自立と社会参加推進功績で内閣総理大臣賞、2000年子ども読書推進賞（文部大臣）などを受賞。

<http://fukinotou.org/>



平成24年度に整備した 木造公共施設

(森林・林業・木材産業づくり交付金)




医師駐在センター

- 所在地：檜山郡厚沢部町新町
- 事業者：厚沢部町
- 延床面積：112.62m²
- 木材使用量：地域材 26m³

1



ゆいまーる厚沢部

- 所在地：檜山郡厚沢部町新町
- 事業者：(株)コミュニティネット
- 延床面積：1,310.09m²
- 木材使用量：地域材 294m³



中西別ふれあいセンター

- 所在地：野付郡別海町中西別光町 38-1
- 事業者：別海町
- 延床面積：386.1m²
- 木材使用量：地域材 80m³

3



市民スケートリンク管理棟

- 所在地：北見市光葉町 4-1
- 事業者：北見市
- 延床面積：475.91m²
- 木材使用量：地域材 87m³



町民プール

- 所在地：中川郡豊頃町中央若葉町 22-1
- 事業者：豊頃町
- 延床面積：790.81m²
- 木材使用量：地域材 130m³

5



ひやこ公園体験施設

- 所在地：余市郡赤井川村字部 113-3
- 事業者：赤井川村
- 延床面積：90.72m²
- 木材使用量：地域材 23m³



まちなか交流センター

- 所在地：檜山郡厚沢部町本町
- 事業者：厚沢部町
- 延床面積：476.6m²
- 木材使用量：地域材 94m³



住民センター

- 所在地：上川郡下川町一の橋 607
- 事業者：下川町
- 延床面積：267m²
- 木材使用量：地域材 69m³



ふれあい交流施設

- 所在地：上川郡下川町班溪 2892
- 事業者：下川町
- 延床面積：37m²
- 木材使用量：地域材 11m³

9



農業研修生等宿舍

- 所在地：中川郡美深町字敷島 279
- 事業者：美深町
- 延床面積：273.64m²
- 木材使用量：地域材 63m³



はまとんべつ温泉コテージ

- 所在地：枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔
- 事業者：浜頓別町
- 延床面積：263m²
- 木材使用量：地域材 100m³



林業学習体験施設

- 所在地：士別市東丘 1丁目
- 事業者：士別地区森林組合
- 延床面積：89.91m²
- 木材使用量：地域材 33m³

木育と地材地消
さまざまな
取組

あれも木育、これも木育 08



木育マイスター
桂 充子さん
北海道芸術デザイン専門学校
bisen環境デザイン学科長。彫刻を学んできたことを生かし、木育を通じて素材のひとつでもある「木」とのかかわりあいを広めていきたい。

bisenの 木育イベント

北海道芸術デザイン専門学校 (bisen) の卒業制作予告展の一環として、「木育イベント」親子で作ろう木のアクセサリー&木のスリングショット (木のパチンコ) が紀伊國屋書店札幌本店で開催されました。

木育マイスターであり、環境デザイン学科の講師を務める桂さんが、地域振興型のイベントの中で、「ものづくり」を広く紹介したいという思いから学生と一緒に企画。

材料は普段学校の授業で使っている木材から加工しやすいものを選び準備しました。

いつもは接点のない親子連れの参加者と学生が、「木育」の切り口で一緒に考え、ひとつのものを作りあげることができ、参加者も200組を超える大盛況の2日間でした。



01 木育マイスターと一緒にスリングショットづくり
02 スリングショットの試し打ちは大盛況

お魚殖やす 植樹運動と 木育マイスター

留明管内唯一の木育マイスターである大塚さんは、「お魚殖やす植樹運動」に長年取り組んでいる「北るもい漁業協同組合女性部(羽幌町)」から依頼を受け、女性部が毎年一緒に植樹活動を行っている北海道羽幌高等学校のみなさんに植樹活動の事前学習を行いました。

漁協女性部長さんが「森と川と海のつながり」についてお話しした後、これから植える小さな苗木が今後大木に育っていく様子や、これらの樹木の特徴などを解説しました。

生徒のみなさんは、苗木が大きく育ち、森となり、川や海につながっていく様子をイメージしながら植樹作業を行うことができたのではないのでしょうか。



01 木育マイスターによる樹木の解説
02 漁協女性部と羽幌高等学校の生徒が力を合わせて植樹



木育マイスター
大塚優佳さん
留明南部森林管理署
平日は職場で、休日は旭川近郊で活動していきたいと思えます。お気軽に声をおかけ下さい。



木育マイスター
後藤菜摘子さん
 手稲さと川探検隊
 子どもたちと昔子どもだった大人たち
 と手稲の自然を楽しむ自然体験活動団
 体「手稲さと川探検隊」スタッフです。
 新企画を考えるのが大好きです。

さとmori遊び・木育体験2013

木育マイスターのいる団体「手稲さと川探検隊」は、札幌市手稲区の森や川で、年間通して自然体験活動を行っています。11月3日は、「さとmori遊び・木育体験2013」ということで、木育ワークショップ「打楽器カホニート」を作って森で演奏してみよう！in手稲山パラダイスヒュッテ」を開催しました。

まずは手稲山のカッコウの森へ行き、みんなでイタヤカエデの種拾いと毎年その年に多い木の種はどんな種類かを記録するために設置しているシードトラップの回収です。

その後は、山小屋へ戻って拾ったイタヤカエデの種をまき、いよいよ、木育マイスターが講師となって「カホニートづくり」です。大人も子どもも自分だけのカホニートづくりに夢中です。

カホニートが出来上がったら、プロのパークセッション奏者をお招きしたリズムセッションです。男の子、女の子、大人でそれぞれ違うリズムを練習してからみんなのリズムを合わせると、心地よいリズムが手稲の森に響きました。

手稲さと川探検隊では、木育活動をするとときに、できるだけ「つながり」を意識したいと考えています。今回は、森に入り、森の声を聴き、タネを撒き、木材にふれ、香りを楽しみ、作ったカホニートをみんなで演奏するという過程の中で、五感を刺激し、じんわりといのちや森のつながりを感じてもらいました。



▲木育ワークショップチラシ



03

- 01 それぞれが作ったカホニートでリズムセッション
- 02 カホニートづくりはみんな真剣
- 03 カッコウの森で樹拾い



02



03



01



02

- 01 芽森もお客様をおもてなし
- 02 木育教室「押し花のしおりづくり」
- 03 夏は店舗正面玄関前で
プチ木育ひろば

- 名称：東急ハンズ de 木育
- 日時：平成25年4月28日（日）～29日（祝月）
11:00～16:30
- 場所：東急ハンズ札幌店
（札幌市中央区南1条西6丁目）

木育マイスター
さくら いよし ぶん
櫻井善文さん
株式会社ドーコン
動植物や生物多様性にかかわる分野でがんばっています。

木育マイスター
たま り ゆ う し
玉利祐司さん
株式会社セ・プラン
森林の調査をすることが得意です。

木育マイスター
なかむら ひろし
中村裕さん
株式会社ドーコン
子どもたちが自然とふれ合う活動を企画したい方は、お気軽にご相談ください。

東急ハンズ de 木育

道庁が出版していた、とある木育イベント会場で東急ハンズのスタッフさんが「木の砂場」に足をとめました。これが、東急ハンズ札幌店での木育ひろばと木育教室のはじまりでした。

その年の春、きっかけは「木の砂場」でしたが、東急ハンズではじめての木育イベントは「きぼうのプール」と「スギツクモック」の遊び場と木育マイスターによる「押し花のしおりづくり」でした。「しおりづくり」は、植物にも詳しい木育マイスターが、森の樹木のお花が咲く時期に、少しずつ採取してきたものを用意。しおりづくりをしながら、その花が咲く木のこともちょっとだけ勉強してもらいました。

そして夏、店舗の正面玄関にプチ木育ひろばが登場、晴天とはいかなかったものの、軒下のこじんまりした空間で、多くのみなさんに木とふれあってもらえました。

木育マイスター著



「緑の下のエンジニア」

北海道で生まれた「木育」と「木育マイスター」

「ドーコン叢書3～緑の下のエンジニア」は、2名の木育マイスターが所属する株式会社ドーコンから平成25年11月に発行されました。

本書では、「北海道で生まれた「木育」と「木育マイスター」と題し、出産祝いとして送られた「木のタマゴ」がきっかけとなり「木育マイスター育成研修」を受講した、マイスター第1期生中村氏が木育マイスターの認定取得と木育活動を紹介。

また第2期生となる櫻井氏は、身近な自然を例に生物多様性を解説した「里山から考える生物多様性」を執筆しています。書店などで見かけたら、ぜひ手に取ってみてください。



ウッドシェイカー



小さなカホン



小さなカホン2 (ギロ付き)

木工作を「工作」するのって？

道産材を使って木工作をするということ

木育や地材地消の活動では、木の良さや道産材を使う意義を伝える手段として、木を使った工作をする方法が良く用いられます。木工作というと「夏休みの自由研究」の категорияに入りがちですが、道産材を使う選択をするのは大人ですから、そのターゲットは子どもたちだけでは無いはずです。

「木育事例集3 (平成25年3月発行)」では、大人も楽しめる木工作として、家具工房旅する木の「ツールづくり」や、むかわ町の「グリーンウッドワーク」の取組、巻末で「きぼうのプールづくり」や「カホンづくり」、「マイ箸づくり」

を紹介しました。さすがに、木工芸の職人さんのレベルに達することは難しいのですが、「単純すぎず、作ってみたいと思わせる魅力的な (かつ、手ごろな価格な)」木工作でなくてはならない…そういう意味で、新製品開発と視点は変わりません。

木工作資材の発注は数量も少なく、加工工程が結構複雑なことも多いことから、供給や加工をして頂く企業様にはいつもご面倒をおかけしています。この場をお借りしてその厚意に感謝申し上げます。

「いつも、無理言って、すみません」。

●ウッドシェイカー

道産のシナ合板と、ペーパーウッドを使ったウッドシェイカーです。中に熱帯魚用の砂を入れています。板の厚さを2種類にしたことで、音の違いを楽しむことができます。

- サイズ：50mm×50mm×148mm
- 部 材：滝澤ベニヤ (株) / 道産シナベニヤ4mm、Paper-Wood series V

●小さなカホン

道産のシナ合板と、ペーパーウッドを使った小さなカホンです。サウンドホール面にペーパーウッドを使用したので、その色紙と木材が重なる美しい木口を楽しめます。

- サイズ：215mm×300mm×150mm
- 部 材：滝澤ベニヤ (株) / 道産シナベニヤ4mm、道産シナ共芯合板9mm、Paper-Wood series V

●小さなカホン2 (ギロ付き)

道産のシナ合板と、ペーパーウッドを使った小さなカホンです。内部空間を2つに仕切ることによって音の違いを出すとともに、道南スギの壁材を付けることでギロの役割を持たせました。

- サイズ：172mm×295mm×189mm
- 部 材：滝澤ベニヤ (株) / 道産シナベニヤ4mm、道産シナ共芯合板9mm、12mm、Paper-Wood series V (株) ハルキ / 道南杉壁材「ハル壁」 10mmリブ加工済

滝澤ベニヤ (株)

昭和11年創業。北海道芦別市で広葉樹の合・単板を製造。ロータリーレースにより丸太から加工することで、多品種、高品質、少量生産に取り組んでいる。Paper-Woodは2010年度のグッドデザイン賞受賞したほか、ecoシラパネルを使った間仕切りが2013年度のグッドデザイン賞を受賞など、デザイン性に優れた素材づくりを手がけている。



(株) ハルキ

昭和35年創業。北海道茅部郡森町で製材業、住宅プレカット加工販売などを手がけ、植林、伐採から製品出荷まで自社一貫生産を行う。環境やエネルギー問題に対し、木育、地材地消、エコアクション21、木質バイオマス、大規模ソーラー、CFP、国内クレジット等、積極的に取り組む。



※キットの製作は (株) 東急ハンズ札幌店さんにお願いました。 ※なまけたろうは (株) ほんやら堂さんのご協力を頂きました。



01

木育マイスター
たかたなおき
高田直紀さん

西興部村地域おこし協力隊
自然の中での『発見』を大切に活動しています。キーワードは「共有」「体感」「気づき」。

木育マイスター
かねだゆうい
金田結さん

西興部村地域おこし協力隊
木工指導員として木工教室等を行っています。木のものづくりの楽しさを多くの方々に伝えたいです。

西興部村の木育マイスター

西興部村は、「木の砂場」の生みの親でもある故・伊藤英二先生が館長を務められた森の美術館「木夢（こむ）」や市街地に隣接する豊かな森林を活用した「木育」の里山づくりを掲げ、木や森と人の関わりを主体的に考えることができる環境づくりに取り組んでいます。

また、西興部村には2人の木育マイスターがいて、それぞれ「木育担当」「木工担当」を担っています。木育で言うところの「みどりとちやいろ」の両輪がそろうっているのです。

「緑の木育」担当のマイスターは、自然体験を通して森林資源の活用や身近な森林環境について考えられるように森林公園「宮の森」をフィールドとして様々な取組を行っています。たとえば、小学2年生の生活科授業の中で定期的に森林体験させることで、季節の変化を体験的に感じられる学習などを行っています。

「茶色の木育」担当のマイスターは、伊藤英二先生デザインの木工作品を引き継いで製作を行ったり、「マイはしづくり」、「木べらづくり」、「カッティングボードづくり」など村民のみなさんの木工指導を行ったりと、木工体験や木製品を利用することを通して、木材が持つぬくもりを感じることが出来る取組をすすめています。

最近、村で誕生した赤ちゃんの生誕100日記念としてプレゼントしている木のおもちゃの製作もしています。プレ

ゼントは、引き車、積木ドミノ、ガラガラの中から選ぶことが出来、いずれも生まれた日とお名前が刻まれるそう。木のぬくもりを感じられるうれしい贈り物ですね。



03



02

01 マイはしづくり、箸の長さは一咫半です
02 いつもの森で葉っぱの観察
03 氷点下の寒さにも負けず冬の森へ



木育マイスター
鈴木正樹さん
株式会社ハルキ

木がたくさん！工場見学や森林環境教育・イベント活動等々、ご相談ください。

01

青少年の体験活動 推進事業「ジュニア リーダーコース」

ネイパル森で開催された、中学生・高校生の青少年活動リーダーを養成する「ジュニアリーダーコース」は渡島教育局が主催し毎年開催。今年の研修テーマとサブテーマは、少し長いのですが「持続可能な地域社会を次代に引き継ぐために」木育を中心に環境問題について考えることを行動に移すために」です。研修では木育マイスターが講師となり、木育や森林・林業・木材産業についての講演や環境教育プログラムの体験、製材工場見学などを行いました。参加者からは「木育を通じて人と人との繋がりが生まれたら良いな」「木育の素晴らしさをたくさんの人に知らせたい」といったうれしい意見が聞きました。



02

01 製材工場見学。この木なんの木？
02 木育マイスターのワークショップ

大沼森の学校と 緑の学校

森の学校は大沼森林公園を拠点に、豊かな大沼の自然を身近に感じられる自然学校です。親子で一緒に活動できる木育や、環境教育プログラムを多く取り入れています。

たとえば、木育マイスターによるプログラム企画「色育と木育教室」や「野外でアウトドア料理を楽しもう！木育と食育」なども開催。季節を通して四季の移り変わりを学ぶことができます。

また、ご夫婦で木育マイスターの丹羽さんは、地域の学校関係者からの依頼で、「緑の学校」におけるマイ箸作りのプログラムなども行いました。

木育マイスター
丹羽敬介さん
森の学校の講師をしています。

木育マイスター
丹羽里美さん
自然とかかわりながら子ども達に木育を教えていきたい。

01 緑の学校でマイ箸作り
02 冬の活動「そりすべりの丘」の一コマです。自然の丘の傾斜を利用して、森の中を水々の中をすり抜けて滑ります。



02



01



02



01



03

- 01 「きたのき文化祭」～森の恵ファッションショー
- 02 「北の木づかいフォーラム」～NPO法人ezorock 大熊 啓介氏
- 03 「きたのき文化祭」～全景
- 04 「北の木づかいフォーラム」～混雑する会場

●日時：平成26年3月7日（金） 13:00-17:00「北の木づかいフォーラム」
平成26年3月8日（土） 10:00-17:00「きたのき文化祭」
●会場：3/7 内田洋行ユビキタス協創広場U-cala（札幌市中央区北1条東4丁目）
3/8 サッポロファクトリーアトリウム（札幌市中央区北2条東3丁目）
●主催：北海道林業・木材産業対策協議会
●共催：北海道
●協力：株式会社内田洋行、学校法人谷内学園北海道文化服装専門学校、株式会社中村縫製
●運営：認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」、NPO法人ezorock

道産材を活かす2DAYS



04

サッポロファクトリーでは、「木育事例集3」でも紹介した「めざSOY A!! てっぺん2013 in sapporo」など、これまでも木育や地材地消のイベントを実施してきましたが、今回は会場を2箇所に分けて「道産材を活かす2DAYS」を開催しました。

1日目の「北の「木」づかいフォーラム」地材地消で生まれる、地域の個性、地域の未来」では、店舗・事務所、住宅、社会活動の3ジャンルに分けて、道産材を使った新たな取組みの事例発表を、内田洋行ユビキタス協創広場U-cala（P.21で掲載）で実施しました。

2日目の「きたのき文化祭」文化祭は北海道産の木を使う暮らし、文化を楽しもう！」では、サッポロファクトリーアトリウムで、道産材を使った楽器による「北の木の調べ」コンサートや、木についてのトーク、森の恵みをつかったファッションショー、道産材を活用した「住宅部材展示ブース」、子ども大人も楽しい「木育ひろば」など、北海道産の木を使い、木を楽しむイベントを実施しました。

クリスマスツリーはどこへ？



キッズルームの「木製小屋」

サッポロファクトリーと言えば、毎年11月～12月にライトアップされる15メートルの「ジャンボクリスマスツリー」。

さて、このクリスマスツリー、広尾サンタランドより寄贈されたトドマツなのですが、イベント終了後はどうなっているのでしょうか？



キッズルームの「木の時計」

実は、2011年のクリスマスツリーは製材され、サッポロファクトリーの3条館2階にあるキッズルームの「木製小屋」に使われているんです。そして2012年のクリスマスツリーはキッズルームほかサッポロファクトリー館内3箇所「木の時計」になっています。サッポロファクトリーを訪れた際には探してみるのもおもしろいかもしれませんね。（株式会社アドバコム 箱崎 若男）



木育マイスター
 麻生 翼さん
 NPO法人 森の生活

下川町を拠点に森林環境教育や各種森林体験プログラムを提供しています。一人でも多くの方が楽しく森と接点を持てるようお手伝いします。

01

もりと遊ぼう！ 親子で木育体験

第35回なよろ産業まつりの体験プログラムのひとつとして開催された「もりと遊ぼう！親子で木育体験」は、北欧発祥の森林環境教育プログラム「LEAF」を体験。

講師は、LEAFナショナルインストラクターでもある木育マイスター麻生さんです。

LEAFは、森林での体験を通じて他人と気付きを共有し、森の持つ経済・文化・社会・生態の4つの側面についてバランス良く理解を深めることを大切にしています。今回のテーマは「森と森から生まれる産業を楽しく学び」と題して、森のなかで生きる動植物の観察をし、森林の幅広い役割や森からの恵みについて学びました。



02

01 LEAFプログラムを体験中
 02 水の中にはどんな生き物がいるかな？

はこだてくわくこう キッズイベント

5月5日こどもの日に函館空港で開催されたのは、「子どもの日だよ！はこだてくわくこうキッズイベント」です。

函館空港では、空港内に道南スギのブロッックで遊べる「木育コーナー」を設置したことをきっかけに、はじめてのキッズイベントを企画、木育プログラムも取り入れられました。

会場では、木の砂場やスギックモックで遊べるコーナーが設置されたほか、木育マイスターによる木のヒコキ作りや木のマグネット作りが実施され、多くの人で賑わいました。



02



01

01 道南スギで自分だけの木のヒコキづくり
 02 木育ワークショップコーナー
 03 木の砂場とスギックモックコーナー

03

木育マイスター
 戸巻 朋子さん
 認定とも園どんぐり

木製遊具の取扱や森づくり体験など「木育」活動に取り組んでいます。地域の小さな子どもたちと共に、楽しみながら木の良さを伝える機会をたくさん持ちたいと思っています。





木育マイスター
菊地三奈さん
 mother's space ミーナ
 子育て支援活動をしているおもちゃコンサルタントマスターです。木育おもちゃを使って親子で遊んだり、木のおもちゃの良さをママに伝えています。

保育専門学校で「木育」

札幌の保育専門学校「学校法人三幸学園 札幌こども専門学校」で講師として活躍する木育マイスターの菊地さんは、「世界のおもちゃ」の授業の中で「きぼう（木棒）のプール」を使い「木育」について紹介しました。

授業は、「こどもおもちゃコース」3年生対象。世界各国のおもちゃを学ぶだけでなく、自分たちが住む北海道の木について知ることも大切だと考えました。おもちゃの原料となっている木について取り上げ、木とふれあい、木を知ること、北海道発祥の「木育」の考え方を知ってもらうことがねらいです。

授業では間伐の必要性など森林の循環利用について説明し、全道をまわっている「きぼうのプール」を紹介しました。学生さんがきぼうのプールを自分たちで組み立て、片付けをして、道産の木にふれあいました。また、パーニングパンを使い、木棒に字や絵を描きました。

学生さんからは、「木棒にどんなメッセージが書かれているか探したり、どんな人が書いたのかを想像したりとワクワクした」「木のプールを通して木のぬくもりや人との繋がりが強く感じられた」「木を使って環境にいいのだからかと思っていたが、木を育てるためには良いことなのだとわかった」などの感想がありました。

「おもちゃ」を通じて「木育」の考え方も伝わったのではないのでしょうか。

- 01 まずは「きぼうのプール」の組立から
- 02 「ウッドスタート」の紹介や「木育」のパネル展示も
- 03 きぼう（木棒）に書かれたいろいろなメッセージを探します
- 04 パーニングパン（焼きパン）でメッセージを書き込みます





01 削り馬も木育マイスター日月さんがやさしく教えます
 02 おが粉アートで看板づくり
 03 木育ブース
 04 いろいろなカスターネットができました

岩内仙峡もみじ祭「木育ブース」

10月13日岩内仙峡もみじ祭りに初出店となる「木育ブース」が登場！

もみじ祭りでは、体験型のブースが少ないためか、10時のスタートからずっと人が途切れることなくにぎやかでした。

「木のカスターネットづくり」は自分で絵を描いて穴をあけて製作、「おが粉アート」も、「木の看板」も、結構悩んで丁寧に小さな木のブロックを組み合わせたリ、おが粉で飾ってみました！：個人的な作品がたくさん完成しました。

帯広の森はぐくむからマイスターとともにやってきた「削り馬体験」では、子どもは木をサクサク削る楽しみを味わい、大人は普段ふれない木の感触を楽しんでいました。

遊びながら森を歩き、カエルを見つけたリ、苔がフカフカだったりするところを見て、大人も子どもも感動した「LEAFのプログラム」もみなさんに楽しんでいただきました。

「木育ブース」の企画は、十勝在住の木育マイスターを中心に、各地から駆けつけた木育マイスターや地元森林室の協力で開催しました。

お祭りのカラオケ大会で活躍したマイスターもいたとかいなかったとか？？

秋晴れの下、参加の皆さんと木育マイスターが和やかに交流できた、とても有意義な一日となりました。





木育マイスター
はぎわらひろのの
萩原寛暢さん
自然ガイド

森が豊かな弟子屈町の自然を様々な方にご案内するとともに、地域の子どもたちのために自然をテーマとしたふるさと学習のお手伝いをしています。

弟子屈町 木育週間

弟子屈町では、平成24年より町内の林業多目的センターを活用し、木育の取組の一環として「木育週間」というイベントを開催しています。

平成25年は、10月7日(月)から11日(金)までの5日間、木のプールや木のおもちゃで遊べるコーナーを設置し、最終日の10月12日(土)には、木育マイスターによる木育体験教室「森のお仕事見学&たき火おやつ作り」を実施しました。プログラムでは間伐現場を見学した後、倒したカラマツの枝払いをして森のお仕事を体験、森の散策路では自然林と人工林の違いなどを学び、最後は、たき火でおやつづくりを楽しんで、森の1日を満喫しました。



01 マイスター 3期生の石谷さんも応援に！
02 この木は何歳かな？

2013木育・森づくりパネル展

釧路管内の様々な機関が協働により開催する「2013木育・森づくりパネル展」は、「木とふれあう機会の提供」がテーマです。

会場には木のプールや様々な木製遊具にふれあう「木育ひろば」を設置し、木育マイスターの鈴木さんは本立てや置き台を作る木育工作体験を担当。

木工はただ作るだけではなく、森の木が伐られ、製材されて材料になるまでを学んでから、製作に入ります。パネル展示では、木育や森づくり、地域材の利用、緑化活動などを紹介し、木の温もり、香り、木の良さ、自然の大切さを体感してもらいました。



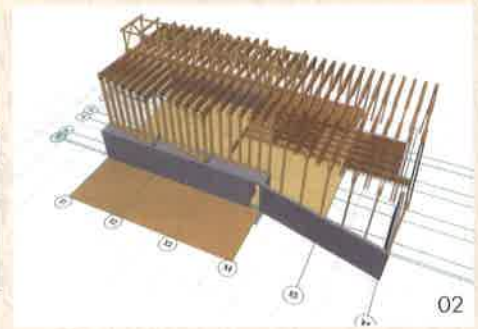
01 木工教室はまず木を知ることからはじまります
02 木のプールや木製ピンボールなどの「木育ひろば」

木育マイスター
すずきけんたろう
鈴木憲太郎さん
丸善木材株式会社

木の存在を理解してもらい、「木が好き！」になってもらうきっかけ作りをしていきたいと思っています。



木育建築のススメ



01 小樽教会外観 02 構造架構図 03 礼拝堂内部

「木造建築」という言葉は一般的に使われていますが、「木育建築」という言葉はまだあまり普及していません。木造とは建築構造材に木材を使っているだけで、建築空間における木材の良さや可能性を伝える表現ではありません。人の生活のなかで「木とふれあい、木に学び、木と生きる」建築はただの木造ではなく、木育としての視点が大切であると思います。これからは木育の理念で造られた建築を木育建築と呼ぶことにしてはどうでしょうか。

近年北海道ではこの木育建築が少しずつ増えています。住宅建築だけではなく公共建築や教育施設、商業施設などにおいても、木とのふれあいを大切に建てられたケースが多くなっています。昨年末に完成した「日本キリスト教団 小樽教会」もそのひとつです。この教会建築を例にとつて、木育建築の特徴を紹介してみたいと思います。

まず木育建築とはどのような建築なのか考えてみましょう。

一つ目はそこで使われている木材が周辺地域の森とつながっていること（地材のつながりが感じられる工夫があること、二つ目はその建築技術に地域の産業とのつながりが見えること、四つ目は木のぬくもりがそこに集う人を優しく結びつける建築であること等々、厳密ではありませんがそのような建築と木材の関係

が条件となるでしょう。

小樽教会は1885年に小樽で創立されたメソジスト系のキリスト教会で、130年の歴史において今回が3度目の改築です。延べ面積400㎡の木造2階建ての教会ですが、木育建築のモデルとなるよう計画されました。献堂式の挨拶文には「小樽教会では、この永い信仰の伝統を目に見える形の上でも表現すべく、稲穂町の会堂以来用いられてきた床材、椅子、説教壇、聖餐台、大中小三つの鐘など、引き続き新会堂に生かして用いることにしました。また梁や柱、外壁などに無垢の後志産カラマツ材をふんだんに使用して、木のぬくもりと優しさが感じられる会堂となっています。」と解説されています。

昨年2月に倶知安町琴平の森で伐採した無垢のカラマツ材を使った新しい建築デザインを目指す一方で、80年前から教会堂の床に使ってきた道産ナラ材のフローリングなどを再利用し、古く壊れかけた家具類を丁寧に再生することで、記憶装置としての木の力と魅力を生かした木育建築に仕上がりました。

ぜひ近くに行かれることがあれば、外部だけではなく内部の空間も体験してください。鳩の木製レリーフが迎えてくれるはずです。

建築家 下村 憲一
(木育ファミリー会員)

あの地材地消はどうなったのか

「住宅部材展示ブース」をなおせど!

北海道林業・木材産業対策協議会では、道産材による住宅資材を見て、触れて、木の良さを感じていただくため、柱、梁、壁、床などをサンプル化して立体的に組み立てるなどして、住宅への利用方法を臨場感のある展示方法「住宅部材展示ブース」として、道産木材の普及に取り組んでいます。

展示している部材は、道内で永年、良質な住宅部材の製造に取り組んでいる各製造メーカーにサンプルの提供協力をいただき、アクセスサッポロ（北海道札幌市白石区流通センター）で開催される「住宅リフォームフェア」や、道内各地での展示や東京ジャパンホームショーなど、平成22年度から20回程度出展してきました。

今回、その展示効果を高めるため、展示ブースの高さ・サイズなどをリニューアルし、より多くの場所で展示できるようになりました。最初のお披露目は、平成26年3月8日サッポロファクトリーアトリウム（北海道札幌市中央区北2条東4）です。今後も引き続き、道内各地のイベントなどで展示することで、道産木材の利用拡大を図っていきたいと思います。

（北海道林業・木材産業対策協議会 奈良 賢）

改良後



改良中



改良前

「あんみつ」は夏の「き」語です

（株）雪印パーラーでは、平成23年1月より道産の食材を使ったクリームあんみつ用の器として木製食器を実際に店舗で使用し、お客様の反応や食器の使用感、耐久性等についてのモニター調査を、北海道と北海道林業・木材産業対策協議会との協働で実施しています。

平成26年3月からは、モニター調査の結果を踏まえた改良版の木製食器とガラス器を製作し、引き続きモニター調査を継続して実施するとともに、道産木製品の普及PRに取り組むことになりました。

新たな気持ちを大切に、これからもおいしい「クリームあんみつ」をご提供させていただきますので、ご賞味いただければ従業員一同お待ち申し上げます。

（（株）雪印パーラー 榎本 泰己）

※雪印メグミルクグループは、北海道と締結した包括連携協定の取組みの一つとして、地材地消による北海道の産業振興のため、道産木製品の普及PRに取り組んでいます。



改良前

木製食器の仕様

- ト レ ー：道産クルミ材 液化ガラス塗装
- ス プ ーン：道産イタヤ材 プリポリマー塗装
- 湯 呑 み：道産クルミ材 プリポリマー塗装
- ガラス容器台：道産クルミ材 液化ガラス塗装
- ガラス容器：45工房（江別市）
- 製 作：（株）ササキ工芸（旭川市）
- デ ザ イン：プロダクトデザイナー 伊藤千總氏（札幌市）

改良点

- スプーンを、使用しやすい形に改良した
- ガラス容器を、容器台から滑りにくい形に改良した

※改良状況をわかりやすくするため、ガラス容器台を除いて撮影しています。



改良後



印刷用紙
表紙：OKプラスター7C/ナチュラル
本文：ニューVマットFSC-MX

北海道の木をしよう！



「木育」についてのお問い合わせは

●北海道水産林務部森林環境局森林活用課（木育推進グループ）

所在地／北海道札幌市中央区北3条西6丁目 北海道庁10F

電話／011-204-5515

ホームページ／<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sky/mokuiku/index.htm>

「地材地消・バイオマス」についてのお問い合わせは

●北海道水産林務部林務局林業木材課（需要推進グループ）

所在地／北海道札幌市中央区北3条西6丁目 北海道庁11F

電話／011-204-5492

ホームページ／<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/chizai/index.htm>